



WINPEC Working Paper Series No. J1604

March 2017

Working Paper Series

『外国語教育のシステム化と教室運営－英独仏中韓西露日の語学授業とクラス間連携－』

ロシア語教育のシステム化と教室運営

金子百合子

現代政治経済研究所

(Waseda INstitute of Political EConomy)

早稲田大学

ロシア語教育のシステム化と教室運営*

金子百合子**

概要

江戸時代の漂流民に端を発するわが国のロシア語教育は常に日露間の政治経済動向の盛衰に大きく左右されてきた。20世紀末、ソ連解体・新ロシア誕生の時期にロシア語学習者数は大きく増加したが、その後の世界情勢や日露関係の低迷、さらには英語以外の外国語には厳しい生き残りを懸けることになる大学の教育制度改革の断行といった状況で、今日、多くのロシア語教育機関が学習者減、教員減、授業時間減、学習者の意欲減など様々な問題を抱えている。その一方で、国内ではロシア語教育への関心が着実に高まりつつある。本稿ではロシア語教育界における昨今の取り組みを紹介しながら、以下のことについて述べる。(a) 第二外国語としてのロシア語教育における問題点、(b) 外国語大学におけるロシア語教育の問題点と授業実践事例、(c) ロシア語教育のネットワーク、(d) 自律学習支援体制 (ICTの活用) について、である。

キーワード：ロシア語、能動的学修、高大連携、自律学習支援、ICT

1. ロシア語教育の現状と問題点

日本の大学におけるロシア語教育は筆者が所属する神戸市外国語大学のように専門教育として行う場合と、第2外国語の一般教養としてのものとの大別できる。前者については次章で触れるので、本章では主にロシア語学習者の圧倒的多数が属する後者について現状と問題点を述べる。

1980-90年代、ペレストロイカ・ソ連邦解体・新生ロシア誕生と激変する世界情勢の影響を受け、ロシア市場と日露関係発展への期待感からわが国ではロシア語

* 本篇は Working Paper Series 『外国語教育のシステム化と教室運営－英独仏中韓西露日の語学授業とクラス間連携－』の一篇である。

** 神戸市外国語大学外国語学部ロシア学科准教授

学習者が激増した。対ロ国策としてではないロシア語教育へ組織的に強い関心が寄せられるようになったのもその頃からである。1997年に日本ロシア文学会が国内のロシア語教育機関（116施設）を対象に実施したアンケートではロシア語教育の改善点として以下のものが挙げられた。回答数の多い順に並べると、「対露感情の好転と関係の拡大強化」、「授業時間数の増加」、「体系的な教材の準備・開発」、「授業の種類・グレードの多様化」、「外国人教員の増強」、「教授法の研究と経験交流の拡大」、「クラス人数の適正化」、「LL施設・教材の利用拡大」、「大学院課程の設置・整備」、「会話力養成に重点を移動」、である（日本ロシア文学会 2000: 304-305）¹。その後、2001年に日本ロシア語教育研究会（ロ教研）が実施した『『専門外ロシア語教育』の現状に関するアンケート』で挙げられた問題点は、『『大綱化』以降のカリキュラム改編・semester制導入による学習時間数の不足』、「複数年次にわたるカリキュラムの非継続性」、「悪化する教育環境の中で地域学・異文化理解・コミュニケーション能力養成にシフトする授業の実現困難」、「学習項目間に整合性のある授業コースデザインの欠如」、「受講生の動機・意欲不足」、であった（ロシア語教育研究会 2002）。最後の点に関して、報告書では悪化する教育環境の制約の中で、実践力の獲得を志向する受講生のニーズに授業内容が応えられない現実が受講生の意欲を引き出せていない事情も斟酌している。2011年に日本ロシア文学会ロシア語教育委員会が実施した「第二外国語としてのロシア語」教育状況調査（105施設）においても上述の問題について教育現場からの切実な声が聞こえてくる（ロシア語教育委員会 2012）。

この間改善した点もあれば、これからの問題もある。不安定な国際情勢や日露関係の停滞の中でロシア語学習者は減少し、皮肉にも（第2外国語に限定すれば）少人数教育が可能になった。内閣府による世論調査を見ても国民のロシアに対する親近感はずっと低いまま推移している²。実践的コミュニケーション能力養成（と要請）の気運はさらに高まってきているが、それに応じられるだけの学習時間は多くの教育機関で確保できていない。だが、こうした現状に教員が手をこまねいているわけではない。ロシア語教育への関心は着実に高まりつつあり、教授法・教材研究、情報共有、経験交流、教育機関連携の試みなど、上記の課題に対して様々な取り組みが全国各地で行われている³。それらのいくつかについて本稿でも触れることになる。

2012-13年には6言語の学習者の動機づけ・学習環境に関する全国規模のアンケート調査が行われ、ロシア語学習者の調査はロ教研メンバーが代表を務める科研グループが担当した⁴。調査対象は全国30機関に所属するロシア語を第2外国語として学ぶ学習者1114名である。調査の結果、ロシア語学習者は、他言語学習者と比べて、自己決定理論における内発的動機づけの値が高い一方で、期待価値理論における期待値、達成価値、実用価値、コストの尺度では軒並み芳しくない値を示した。つまり、ロシア語学習者はロシア語学習に高い興味・関心を示す一方で、学習する負担（コスト）を強く感じ、ロシア語を習得できる期待感も薄く、役に立つとも思っていない、という傾向にあるということだ（佐山他2015）⁵。

学習理由の自由記述によれば、ロシア語学習の三大要因は「興味」、「履修要件」、「言語習得目標」であった（金子2014：24）。内発的動機づけ因子である「興味」の高さは一見すると喜ばしいことであるが、この値は第2外国語としてのロシア語授業が学習環境として望ましい小規模クラスで開講されていること、したがって授業参加度が高くなること、と正の相関を見せる（佐山2016：201-203）。それが“ロシア語学習への高い関心”の裏にあるからくりである。また、小規模クラスはロシア語学習者の減少も反映しており、喜んでばかりいられない。自由記述の質的分析によるとロシアへの興味・関心は漠然とした感覚的なもの、表層的なもの（面白そう、楽しそう；文字や響きへの関心）が多い（金子2014：25）。これはロシア語を選んだ奇特定の学習者に魅力ある、インターアクティブな授業（楽しい授業？）を提供しようと工夫する教員の努力の賜物であろう。だが、そのために学習事項の選択や習得目標の設定に妥協せざるを得なくなっているとしたら、それが結果として、ロシア語習得へ希望が持てない学習者を生み出す原因の一つになっているかもしれない⁶。

当調査では学習者の専攻分野と、ロシア語学習の動機づけの強さやロシアに関する興味の対象との間に密接な結びつきがあることも明らかになった（林田&金子2014：48-49、金子2014）。動機づけは外国語・芸術系で高く、自然科学・医療看護系で低いという結果は直感的にも頷ける。であれば、本学のような外国語大学には相当意欲的な学習者が揃っていると期待できるはずである。だが、大学全入時代を迎え、世界が急激にグローバル化する中で、本学のようにロシア語を専攻語学として学ぶ学生の動機も多様化している。次章ではそのようなロシア語専攻の学習者

について筆者の授業実践報告も兼ね述べたい。

2. 教室運営に関わる課題

戦後間もない 1946 年に開校した神戸市立外事専門学校を原点とする神戸市外国語大学は、当初より外国語学の専門大学として学習言語の高度な専門的知識と運用能力を持つ人材を育成し社会に輩出してきた⁷。ロシア学科の定員は一学年一クラス 40 名であるが、多数の留学する学生や少数の留年する学生による増減があり、例年 40～45 名程のクラス規模になる。専攻ロシア語のカリキュラムは「ロシア語の基本的な運用能力を養成すること」を目標にⅠ階程からⅢ階程までは週 6 コマ(1 コマ 90 分)、Ⅳ階程では週 4 コマのロシア語専攻授業から組まれている(表 1)。

表 1 2016 年度神戸市外国語大学ロシア学科における専攻ロシア語カリキュラム⁸

Ⅰ階程	文法の基礎 (×4)			会話 (×2)	
Ⅱ階程	文法 [応用・語彙の拡大]	講読 [初級] (×2)		会話 (×2)	
Ⅲ階程	講読 [時事] (×2)	講読 [文学]	講読 [文化]	作文	会話
Ⅳ階程	講読 [文学・文化] (×3)		会話		

文字通り「ロシア語漬け」の贅沢な環境だ。到達目標と科目の内訳を簡略化して以下に示す。Ⅰ階程－ロシア語の発音と文法の基礎を学ぶ [文法×4、会話×2]、Ⅱ階程－文の構造やロシア語特有の文法現象について本格的に学ぶことと並行してロシア語の文章を読む;会話では基本表現や決まり文句を定着させ聞き取りの力をつける [文法×2、講読×2、会話×2]、Ⅲ階程－様々なジャンルのテキストに触れ、言語スタイルの差異、修辞、論法の傾向を知る;テキスト講読で得た知識を作文と会話で実践する [講読×4、作文×1、会話×1]、Ⅳ階程－より難度の高いテキストの講読;対話だけでなく人前で自分の意見が言えるようになる [講読×3、会話×1]。

一年次は日本人教員 3 名が日本語で書かれた文法中心の教科書 1 冊をリレー形式で実施し、日本人教員 1 名(文法担当)とロシア人教員 2 名(会話担当)がロシアで出版された教科書 1 冊で連携する。二種類の教科書の同時使用を効率良く進め、また、授業の進度調整をするために、一年次担当教員は情報交換を密にする。この入門基礎段階で躓くと、次年度以降の授業について行けなくなる。そのような恐れ

のある学習者を教員が連携し早期に見つけ出し対応することが望まれるが、40名を超えるクラス規模が障害となりその機能を十分に果たせていない。Ⅱ階程以降の授業では専門性の比重が次第に増してゆき、各教員が個別に教材を準備するので、ロシア人教員2名がペアとなる会話授業を除き、教科間（教員間）の情報共有はほとんど無い。後述するが、この点には問題がある。各階程別の言語運用能力の到達度評価について外部基準の参照は行っていないが、ネイティブ教員による会話授業ではCEFR準拠の教科書を使用しており、Ⅰ階程でA1(ТЭУ)レベル、Ⅱ階程でA2(ТБУ)レベルを学修する⁹。

自らロシア語専攻を選んだ本学のロシア語学習者は総じて学習意欲が高いことが期待される。そのような学生もいるにはいるが、実際のところ、大学の進学理由は様々である。一年次はじめのアンケートでは“センター試験の結果”でロシア語を学ぶことになった学生も一定数いることが知れる。初修の外国語学習は地道な努力の積み重ねである。加えて、キリル文字の習得から始まり、複雑な語形変化体系が中心となる初級・中級文法を一年間で習得するロシア語学習の負担は、他言語と比べても相対的に大きい。学習の動機づけが維持できなければ、本学のような専門大学で4年間毎日外国語と向き合う修学期間は苦痛になる。残念ながら、Ⅰ階程の後期には既に学習者間に習熟度の差が生じ、この差は年次を重ねる程、顕著になる。特にⅢ階程以降は半年あるいは一年間のロシア長期留学から帰国した学習者もクラスに混ざるため、学生の能力格差は高年次クラス運営において特に対応の難しい問題である。だが、会話の授業でも20人、他の授業では40人のクラス規模はきめ細かな指導をするには大きすぎる。少人数クラスへの編成が無理であれば、何らかの授業フォローアップの仕組みを考えなければならない。

2016年度現在のロシア学科のカリキュラムは、表1に見るように、文法・講読・会話・作文に分類される専攻科目の中で講読の比重が相対的に大きく、それは教養人による高いロシア語運用能力の基盤は文章語に対する高い理解力にあるという信念に基づく¹⁰。Ⅲ階程では講読で得た知識（インプット）を会話や作文の実践授業で運用能力（アウトプット）として定着させることを目指しているが、現実には、インプットとアウトプットの両輪が上手く回っていない懸念がある。具体的には講読による情報量を消化出来ず、単なる語彙の意味調べとそれを並べた間に合わせの訳出という表面的な“学習（予習）”で手一杯の学生が少なからずいるのが現状だ¹¹。

そのような学生は知識のインプット、すなわち学習事項が記憶として定着していないので、当然、知識のアウトプットもままならない。テキスト読解力と作文力のレベルに大きな隔たりがあるというのが、Ⅲ階程の作文授業を担当する筆者の実感である。Ⅱ階程以降、シラバス作成は個々の教員の裁量に任せられてきたが、インプットとアウトプットに関する授業間のバランスや階程間の連続性は現在進行中の検討課題である。また、カリキュラム全体の体系性の検証も今後の課題として取り組む予定だ。このような問題意識を持つきっかけとなった専攻ロシア語Ⅲ作文の授業実践例を以下で紹介する。

昨今の動機づけに関する研究は語学教育界に大きな反響を呼んだ。自己決定理論では学習者の内発的動機づけの高さと学習成果には因果関係があること、さらに内発的動機づけは学習者の三つの心理的欲求—有能性 Competence、自律性 Autonomy、関係性 Relatedness—の充足によって高まることが指摘された (Ryan & Deci 2000、2002)。また、授業が学習者参加型であるほど学習者の心理的欲求の充足度は高くなり、動機づけも向上する。心理学では自己効力感 self-efficacy が学習意欲を向上させる主要な因子とされ、その自己効力感は「やり遂げた」という達成体験 (他) によって形成される (Bandura 1997、Pintrich 2000、Zimmerman 2000)。これは今日、日本の教育界に浸透が急がれている能動的学修 (アクティブ・ラーニング) が目指すところでもある。そのひとつの手段として、単に外国語の知識を学ぶのではなく、外国語で新たな知識を学ぶという内容重視型教育法 CBI Content-Based Instruction がある (Met 1999) ¹²。ロシア語教育においても、大学で第 2 外国語としてロシア語を学ぶ学習者を対象に CBI 授業が実践され、一定の成果を挙げている (横井他 2013、林田 2013)。

学習者の自己決定的な動機づけを向上させ、具体的な学習成果を実感させることで、ロシア語を使って何ができるかという実用価値の理解を促すことを目的に、筆者は 2015 年度の「専攻ロシア語Ⅲ作文」の授業の前期 12 回分を使って、グループ毎に選んだテーマについて調査した結果をポスターセッションという形で発表する授業を試みた (対象学生は 3 年次履修生 38 名) ¹³。「作文」課題は読み原稿、ポスター、レジュメ、語彙集の四点である (図 1～4 参照)。基本となる読み原稿は毎週教員に提出し添削を受け推敲を重ねる。名目上は書く技能の向上が目的の「作文」授業であるが、CBI では四技能の全てが統合されたタスクとなり、これは実際

の言語活動そのものである。学生は調査段階で多くのロシア語で書かれた資料を探し出してきて読み（デジタル世代の彼らは情報収集能力が非常に高い）、テキストを書き（書き直し）、発表に備えてスピーチの練習をする。授業後に行ったアンケートの回答には、ロシア語作文についての理解の深まり、新しい表現・語彙の獲得、テーマに関する知識の獲得、自己表現の達成感、学習に対する意欲的、積極的態度高まり、協働作業での互助の精神と楽しさや充実感、協働作業を通して作文することでの気づきと振り返り、といった好ましい側面が見て取れ、CBIの手応えを実感した。

だが、好ましい面だけではなく、問題点も浮かび上がった。とりわけ、自分の作文の弱点はわかってもその解決法がわからない、協働作業によるタスク遂行の困難、この二つが深刻な問題である。前者に関しては、振り返りと気づきのための時間が不十分であった反省とともに、具体的な学習方略を探る上で必要な言語的な基礎知識が学習者に定着していないことにも起因すると思われる。協働作業やグループ分けは、教員が考えていた以上に、学習者の心理的には授業課題の成否を左右する大きな要因であった。全体的に、グループ成員の顔ぶれによって協働作業の成否が分かかれ、また、成員間での負担の不公平が見られた。習得レベルが似たような学習者グループはピア・サポートの効果が高かったが、学習者の習得レベルに差があると協働作業が成立せず、グループ内の比較的良好に出来る学生が代わりにやってしまう、というケースもあった。

学習者の自己表現を促し尊重する作文授業は、学習者個別の対応が必要になるだけ負担が大きい。特に、基礎が定着していない学生の作文は、語彙を並べただけのようなものもあり、ロシア語習得能力の格差への対応（リメディアル教育）は焦眉の課題である。また、ロシア語作文（和文露訳）をするには伝達内容が起点言語である日本語でしっかりと文章化できることが前提になるが、日本語で論理的な文章を書く力の弱さを感じる場面も幾度となくあった。ロシア語作文の添削と並行して、日本語の構造に対する分析意識を促す指導も必要になる。

3. ロシア語教育の社会的学習環境とネットワーク

今日、日本でロシア語教育の問題を機関横断的に取り組む組織は二つある。ひと

つは 1950 年創立の「日本ロシア文学会」である¹⁴。当会はロシア語・ロシア文学（広く文献学）の研究組織としてはわが国を代表するもので、高等教育機関で教鞭をとるロシア語教員の多くが所属している（会員数 500 名弱）。ロシア語教育研究会が登場する前は、こちらが日本で唯一のロシア語教育を語る場であった。当学会は会員数の多さの利を活かし、国内におけるロシア語教育の全体像の把握に努め、ロシア語教育関連の調査・書籍紹介等を行うほか、対外的には国際ロシア語ロシア文学教師連合(MAPRYAL)に代表を派遣してきた。学会創立 50 周年を記念して公刊された日本ロシア文学会編『日本人とロシア語—ロシア語教育の歴史』（2000）には、江戸時代の漂流民から始まった本邦のロシア語教育の 200 年に亘る歴史が詳細に述べられている。

だが、学会活動においてはロシア語ロシア文学研究が常に圧倒的な優勢を保っており、ロシア語教育に関する個別研究は論文も口頭発表も 1980 年代までは非常に少なかったが、その頃からロシア語教育に関する様々な組織的提案がなされたり、ロシア語教育のワークショップが企画されたりするようになった。第一章で紹介したロシア語教育に関するアンケート調査（1997）もそのひとつである。現在、当学会はロシア語教育分野の研究成果を全国のロシア語教員に向けて発表できる数少ない場として機能している。毎年の定例総会・研究発表会では語学・文学・文化と並んでロシア語教育の分科会が成立し、多くの研究報告が聞かれる。ロシア語教員を兼ねる大多数の会員がロシア語教育に“一般的な”関心を寄せており、その関心が高まりつつあるのは事実である。しかし、ロシア語教育について“専門的な”研究環境が学会内に整備されているかと言う点では疑問もある。学会誌『ロシア語ロシア文学研究』にロシア語教育関連テーマの学術論文が載ることは今でも極めて少ない。

このような状況に痺れを切らして登場したのが、もうひとつの組織 — 2000 年に創設された「日本ロシア語教育研究会（ロ教研）」である¹⁵。ロ教研はもともと関西の大学で働くロシア語教員たちが自主的に始めた勉強会が原点である。その当時に数名しかいなかった会員数は現在では 80 名を超える。当研究会は、名前の通り、ロシア語教育の理論・実践に関する個別あるいは共同の学術研究の場であり、当研究会メンバーによる昨今の研究成果や会の活動実績が日本におけるロシア語教育の現状と問題点を反映しているとも言えよう。当研究会は西日本と東日本に分かれ

定期的に研究会を行い、夏にはシンポジウムを企画し、冬には全国総会を行う。2010年に創刊した機関紙『ロシア語教育研究』は現在7号まで刊行されている。ここで論じられる話題は、授業実践の具体的な方法論から、到達度評価法の検討、シラバス・カリキュラム開発、教材研究、継承語教育まで多岐にわたる。

こうしてロ教研は着実に研究実績を重ね、活発な研究会活動を行い、他外国語教育機関と連携を図りながら、ロシア語教育研究機関としての基盤を徐々に整備してきた。当研究会がロシア語教育機関・ロシア語教員間のネットワーク作りに果たした役割は非常に大きい。だが、その話題に移る前に、一言述べておきたい。見てきたように、今日、ロシア語の教育研究組織は日本ロシア文学会と日本ロシア語教育研究会という二つの機関に跨っており、ロシア語教育研究の学術的発展と国内外のロシア語教育に関する情報共有を推し進める力が分散している。前世紀から精力的に活動をしているフランス語やドイツ語、中国語などの教育研究組織は、親学会の中の教育部会として下部組織化したり、文学会とは独立して公的に学会化したりしている。ロシア語に関しても、ロシア語教育リソースを無駄なく傾注しロシア語教育の一層の質の向上を図るためには、この二つの機関のあり方を検討する時期に来ているのではないだろうか¹⁶。

さて、これらの機関を通してロシア語教員間の意見交換や情報共有が行われてきたわけだが、それは大学でロシア語を教える教員間の横の繋がりが中心であった。わが国におけるロシアの近隣地域—北海道・日本海沿岸部—に散在する中等教育のロシア語教育機関については教員間の横の繋がりが大学との縦の連携もなく、2000年前後から実態調査がなされるようになってはじめて各地で孤軍奮闘する高校のロシア語教員の姿が浮き彫りになり、彼らへのロシア語教育支援の必要性が明らかになった¹⁷。白山（2000）は中等教育におけるロシア語教育の課題として、1. 大学入試制度の改善、2. 高校生用の教材開発、3. 中等教育段階の教授法の研究、4. 教師間の情報交換、5. 大学教育との連携を挙げている。これらの問題意識を共有し、ロシア語教育研究会が立ち上げた科研プロジェクト「大学間、高等学校—大学間ロシア語教育ネットワークの確立」では、以下の課題に取り組んだ—（1）各機関のロシア語教員をつなげ学習教材・指導方法・評価モデル等の情報交換・情報共有をはかること、（2）ロシア語教員間の研究活動や教育活動において協働できる環境を整えること、（3）ロシア語教員やロシア語学習者が利用できる教育支援・

就職情報サイトを立ち上げることで、である（ロシア語教育ネットワークの確立2016）。

そうして「ロシア語教育支援・就職情報サイト」が開設された¹⁸。教育支援の部分では、具体的な学習指導案や活動案をオープンソースとして提供し、また、高校や大学でのロシア語学習と関連した課外活動の取り組みを紹介する。就職情報の部分では、日本人がロシアで仕事をする時の注意点、ロシアに進出している企業リスト（東洋経済新報社提供）、ロシア関連企業で働く先輩学習者の声を掲載している。学習者の多くはロシア語の実用価値について悲観的だという2012年の科研調査結果であったが（第一章）、現実には、わが国でロシア語能力を持つ人材の社会的要請は高まりつつある。したがって、ロシア語は役に立たないという印象は情報不足もひとつの原因であることは疑いない。この点は産学官の連携や情報共有の効果的な仕組みを検討すべきであり、当サイト開設はその一歩である。

現在、大学入試センター試験の外国語科目リストにロシア語は無い。したがって高校でロシア語を学ぶ生徒は入試時期が近づくと英語にシフトせざるを得ず、せっかく学んだロシア語の知識が活かされない。また、大学に入っても「飛び級」や「習得レベル別クラス」のような制度がなければ初修学習者と同じ授業を受けざるを得ない。ロシア語学習歴を持ち意欲の高い生徒が、ロシア語専攻課程を持つ本学のような大学でさらにレベルアップするためにも、高大が連携した支援体制、具体的には、新たな入試制度や柔軟なカリキュラム等を検討していく必要があるだろう（cf. 林田2010）。これを実現するには一貫性があり、客観的な到達度評価基準が高大の教育機関で共有されることが望ましいが、現実的には多くの克服すべき課題がある¹⁹。

4. 教育システムの構築に向けて

外国語大学における専攻としての外国語教育はその設置理念から具体的なカリキュラム・シラバス編成に至るまで、常に「高い学術的専門知識」と「高い実践的運用能力」の両方の獲得を視野においている。この両者は二者択一でもなければ、優劣がつけられるものでもないはずだが、往々にして議論が「理論／アカデミック」か「実践／コミュニカティブ」かで対立する²⁰。対立の最大理由は授業時間が限ら

れている、単純に言えば、少ないからであって、ひとつのパイの分け方をめぐって対立する（ゼロサムゲーム）。本学に限らず、これまでの外国語教育は教員の側からも、学習者の側からも、基本的に大学の授業の中での完結を目指す傾向にあった。だが、そもそも外国語の習得には持続的で大量の時間が必要であり、それが専門教育であれば尚のこと圧倒的な時間を学習言語に費やさなければならない。これを授業時間だけで確保するのは現実的ではない。では、どのような解決策があるだろうか。質的な観点から言えば、理論を実践と関連づけ両立させることだ。それを可能にする学習形態のひとつが、現在、日本の教育に導入が推進されている能動的学修である。量的な観点からすれば、当然、授業時間ではなく、学習時間を増やしてプラスサムゲームにすればよい²¹。

能動的学修を上手く機能させるためには、対面式授業で学習効果が上がるものと学習者が授業外で取り組める課題とを区別することが大前提である。そして授業時間の制約を克服し、自律的学びを促進するには ICT の積極的活用が期待されている²²。例えば、東京外国語大学の多言語 e-Learning システム「TUFUS 言語モジュール」や大阪大学外国語学部「高度外国語教育独習コンテンツ」等はオープンソースの WEB 教材として提供されている。ICT システムにはプログラミングによって学習者の自律学習を支援する様々な工夫を盛り込むことが可能であり（多読・多聴プログラム、個人の学習記録ポートフォリオ、学習者間での協働タスク等）、使いこなせれば、教える者、学ぶ者の両者にとって頼もしいパートナーとなることが期待される。「理論」か「実践」かの“支持層”は前者が教員、後者が学習者であることが多い。能動的学修を実現するには、教員と学習者の双方が各々「大学教育」と「大学での学び」に対する意識を向上させ、教員のほうは教え方について、学習者は主体的な学び方について知識を深め、経験を積まなければならない。そのためには教員に対しても、学習者に対してもサポート・プログラムが必要になる。また、能動学修型授業では従来以上に学習者への個別の対応が必要になろうし、多様になる個々の学習者の活動過程や習得状況も教員は把握できなければならない。であれば、クラス規模と比例して教員の負担も増大するのは必然だ。ICT 環境の整備には教員の負担軽減の視点も無くてはならない。

教育における ICT 環境の整備は国家戦略的に推進されることを切に望む。大学規模・予算規模の小さな大学ほど整備が遅れる懸念があり、学習者にとっては教育

機会の不均衡に繋がる。不均衡は学習者の経済力の格差によっても生じる。日本の GDP に占める教育関連支出の割合が OECD 平均より低いという指摘がなされて久しいが、本学をはじめ、国公立大学には長時間アルバイトをして学費・生活費を工面する学生が少なくない。例え、ICT 環境が整備され、いつでもどこでも望めば学ぶ機会があるというのに勤労学生はその恩恵に与れないということがあってはならない。

教員に対しては FD の観点から、組織的な取り組みが必要になる。目まぐるしく発展する外国語教育学の知見は、それを専門分野としていない大多数の語学教員にとって未知の分野であり、これらの知識を取り入れ、自分の授業に活かすための職能開発のサポートは必須である。とりわけ日本におけるロシア語は「一般的に教えられていない言語 LCTLs: less-commonly-taught languages」のひとつとして情報共有・経験共有の場が非常に限定されている。国内外に蓄積されたノウハウを学ぶため、国・地域・言語の枠を超えボーダーレスに外国語教育界の横のつながりをさらに強化していくことが大切である。大学での語学授業は専任教員の力だけでは成立せず、多くの非常勤教員によって支えられている。この意味において、言語の共通項以外の属性では極めて多様な研究者が所属する学術研究組織が果たす役割は大きい。各言語の枠内でつながる様々な専門分野の研究者（兼語学教員）に、教育に関する職能の向上へ関心を持つことを奨励し、縦へ横へ情報共有・経験共有の場を提供することが望まれる。その成果が各教育機関（高大はもちろん、専門学校や地域の語学講座に至るまで）で学習者に還元され、日本全体の社会的教育環境の整備を促し、自律した生涯学習者を育成し、しいては社会全体として多様な外国語力の底上げにつながるのではないだろうか。

専攻ロシア語Ⅲ作文
7班 тройка [REDACTED]

作文

ロシアの学生の自由な時間について発表します。
Я буду говорить о том, как (университетские) студенты проводят свободное время в университетах в России.

2012年のデータによると、回答者の約30%が、自分の自由時間の長さについて満足しています。

По данным 2012 года (две тысячи двенадцатого года) почти 30% (тридцать процентов) респондентов довольны количеством своего свободного времени.

довольны ЧЕГО?
количество времени. В русском случае, времени «длина»ではなく「量」になります。

残りの約70%は満足していません。
Остальные - недовольны.

学年別に見ると、1年生は、自由時間の長さについて満足している人が多いです。対照的に、2年生と3年生は、不満を持っている人が多いです。4年生と5年生は、自由時間は十分であるが、もっと多くても良いと考えているようです。

Если рассматривать отдельно Визы по курсам, то многие студенты первого курса думают, что у них достаточно количество свободного времени. А студенты второго и третьего курсов отвечают, что у них недостаточно количество свободного времени. У студентов четвертого и пятого курсов достаточно свободного времени, но им хотелось бы больше.

достаточно ЧЕГО?
достаточно много или мало и т.д. 同様に可算名詞であれば複数生格、不可算名詞であれば単数生格を支配します。時間は不可算名詞!!!

図1 読み原稿推敲過程

КОГДА ВЫ ЖЕНИТЕСЬ?				
СТРАНА	АНГЛИЯ	РОССИЯ	НИГЕРИЯ	ЯПОНИЯ
Средний возраст первого брака	Женщина / Мужчина 31.8 / 33.2	Женщина / Мужчина 24 / 27	♀ 21 (более молодых)	Женщина / Мужчина 29 / 31
Средний возраст первого брака в Англии - МОЛОДЫЙ	Средний возраст матери при рождении первого ребенка - МОЛОДАЯ	Процент разводов → 3/5 ОЧЕНЬ ВЫСОК... Мужчины уходят работать, а женщины боятся одиночества. Многие живут с родителями.	Низкий процент разводов первого ребенка, когда им 20.3 лет (в среднем). Рождаемость составляет 6 детей на одну женщину (в среднем). Многоженство - ОБЫЧНО.	Мужчины и женщины в основном выходят в брак в возрасте около 30 лет. Многие женщины выходят замуж в 30 лет. В 2013 году около миллиона разводов.
В Англии число гражданских браков увеличивается с каждым годом. Потому что...	Снижение продолжительности жизни. Для мужчин - 74 года. Для женщин - 63 года.	Введение мусульманства. Средняя продолжительность жизни - более молодых (52 лет).		Многие женщины работают в компаниях.

図2 ポスター

Тезисы к презентации группы «式»

«Социальные сети в России»

ключевые слова: социальные сети, ВКонтакте, Одноклассники, Коллаж Путина

В России есть разные социальные сети. Какая социальная сеть самая популярная в России? Что происходит с социальными сетями России?

1. Какие социальные сети имеют большое число пользователей?

- ВКонтакте имеет около 55 млн. пользователей, за ним следуют Одноклассники с 40 млн пользователей.

2. Какие социальные сети имеют большое число сообщений?

- Twitter получает 251 млн сообщений/постов в месяц, что больше, чем сообщения в ВКонтакте.

3. Что такое ВКонтакте?

- Это самая популярная социальная сеть в России.
- Вначале принять участие в сети ВКонтакте можно было только по приглашению.
- Одна особенность ВКонтакте в отличие от ВК. – Это загрузка музыкальных файлов.
- С другой стороны, почти все музыкальные файлы загружены незаконно.

4. Что такое Одноклассники?

- Это социальная сеть
- Она имеет 200 миллионов юзеров.
- Но число юзеров не идёт в сравнение с ВК.

図3 レジюме

Словник к презентации группы «Команда Путин»(№.8)

Название презентации:

«О популярных профессиях в Японии и России»

I	Русский язык	Японский язык
1	профессия	職業
2	различный	様々な
3	рейтинг	ランキング
4	обстоять (как обстоит дело в Японии?)	(~の) 状態にある 「日本でどうなっているか」
5	футболист	サッカー選手
6	выбор	選択
7	повлиять на кого что	(~に) 影響を及ぼす
8	доктор	博士
9	учёный	学者
10	СМИ (средства массовой информации)	マスコミ
11	клетка	細胞
12	персонаж в аниме	アニメキャラクター
13	супергерой	特撮ヒーロー

図4 語彙集

参考文献

和泉伸一、池田真、渡部良典（2012）『CLIL（内容言語統合型学習）：上智大学外国語教育の新たな挑戦 第2巻（実践と応用）』、上智大学出版。

臼山利信（2000）「高等学校におけるロシア語教育の現状と課題」、『ロシア語ロシア文学研究』、32、pp. 179-193.

金子百合子（2014）「あなたはなぜロシア語を勉強しているのですか」、『ロシア語教育研究』、5、pp. 21-41.

金子百合子（2016）「内容重視型のロシア語作文授業の試み」、『大学間、高等学校－大学間ロシア語教育ネットワークの確立』2011 - 2015年度 科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書、pp. 115-125.

北岡千夏 & 塩村尊（2013）「ロシア語学習者の初期動機づけ要因に関する考察：Rによるデータ解析」『外国語教育フォーラム』、12、pp. 17-30.

黒岩幸子（2014）『ロシア文学語学学会の国際交流活動とネットワーク』、Working paper Series、No. J1405、早稲田大学現代政治経済研究所。

佐山豪太（2016）「学習環境がロシア語学習者の内発的動機づけ・心理的欲求に与える影響の考察」、『大学間、高等学校－大学間ロシア語教育ネットワークの確立』、2011 - 2015年度 科学研究費補助金 基盤研究（C）研究成果報告書、pp. 195-203.

佐山豪太、宮本友介、横井幸子 & 林田理恵（2015）「〈コロキウム－報告と討論〉全国6言語アンケート調査結果（最終報告）とロシア語教育の方向性」、『ロシア語ロシア文学研究』、47、pp. 382-388.

到達度評価制度（2010）『到達度評価制度構築のための「国際基準」に準拠したロシア語総合試験開発』林田理恵（研究代表）2008 - 2009年度 科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書、大阪大学。

中澤英彦（2012）「ロシア語検定試験について」、『EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究』、富盛伸夫（研究代表）2009-2011年度 科学研究費補助金報告書 基盤研究（B）、pp. 149-169.

日本ロシア文学会（編）（2000）『日本人とロシア語』、ナウカ。

林田理恵（2010）「地域の国際化とロシア語教育」、『ロシア語教育研究』、創刊号、pp. 3-13.

林田理恵（2011）「到達度評価制度を支えるロシア語スピーキング、ライティン

グの評価法について』、『ロシア語教育研究』、2、pp. 1-24.

林田理恵 & 金子百合子 (2014) 「全国 6 言語アンケート調査 (第 2 回中間報告) とロシア語教育の方向性」『言語エキスポ 2014 予稿集—外国語学習に対する適切な動機づけを目指して』、pp. 48-49.

林田理恵 & 横井幸子 (監修) (2016) 『外国語学習のめやす—ロシア語教育用』公益財団法人国際文化フォーラム、林田理恵科研プロジェクト、横井幸子科研プロジェクト.

横井幸子 (2015) 「日本の高校のロシア語教育政策について：教師の学びと主体性」、『複言語・多言語教育研究』、4、pp. 53-68.

横井幸子&林田理恵 (2013) 「内容を重視した外国語教育のカリキュラム開発と指導について—第二外国語としてのロシア語の場合—」、『ロシア語教育研究』、4、pp. 57-73.

ロシア語教育委員会 (2012) 『「第二外国語としてのロシア語」教育状況調査取りまとめ』(日本ロシア文学会配布資料).

ロシア語教育研究会 (2002) 「ワークショップ『日本の大学におけるロシア語教育の現状と課題』」、『ロシア語ロシア文学研究』、34、pp. 147-148.

ロシア語教育ネットワークの確立 (2016) 『大学間、高等学校—大学間ロシア語教育ネットワークの確立』、林田理恵 (研究代表) 2011 - 2015 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書、大阪大学.

渡部良典、池田真 & 和泉伸一 (2011) 『CLIL (内容言語統合型学習) 上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第 1 巻 原理と方法』、上智大学出版.

Bandura, A. (1997). *Self-Efficacy: The Exercise of Control*, New York: W.H. Freeman.

Deci, E. L. & Ryan, R.M. (2000). «The“what”and“why” of goal pursuits: Human needs and the self-determination of behavior», *Psychological Inquiry*, 11(4), pp.227-268.

Deci, E. L. & Ryan, R. M. (2002). «An overview of self-determination theory: An organismic dialectical perspective», *Handbook of self-determination research*, Rochester, NY: University of Rochester Press, pp.3-33.

Dörnyei, Z. (1994). «Motivation and motivating in the foreign language classroom», *Modern Language Journal*, vol. 78, pp.273-284.

Gardner, R. C. and Lambert, W. E. (1972). *Attitudes and Motivation in*

Second-Language Learning, Rowley, Massachusetts: Newbury House Publishers.

Казакевич Маргарита (2010) «Этапы развития и перспективы российской системы тестирования ТРКИ», 『到達度評価制度構築のための「国際基準」に準拠したロシア語総合試験開発』, 2008 - 2009 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書, pp.30-40 (藤原克美訳 (2010) 「ロシアにおける ТРКИ (ロシア語能力検定試験) テスティングシステムの発展段階と展望 (日本語訳)」, 同 pp.41-48).

Met, M. (1999). «Content-Based Instruction: Defining Terms, Making Decisions», NFLC Reports, Washington, D.C.: The National Foreign Language Center.

Pintrich, P. (2000). «An achievement goal theory perspective on issues in motivation terminology, theory, and research», Contemporary Educational Psychology, 25, pp. 92-104.

Yashima, T. (2009). «International posture and the ideal L2 self in the Japanese EFL context», Motivation, Language Identity and the L2 Self, Bristol, UK: Multilingual Matters, pp. 144-163.

Zimmerman, B. J. (2000). «Self-efficacy: an essential motive to learn», Contemporary Educational Psychology, 25, pp. 82-91.

¹ 設問には多様な学修類型をもつ教育機関が回答している (専攻外国語、第二外国語; 四年制大学、短期大学、高専、専門学校、高校他)。

² 内閣府「外交に関する世論調査」<http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-gaiko/2-1.html>

³ 今世紀に入ってロシア語教育関連の個別あるいは共同の研究論文や実践報告は枚挙に暇がない。日本ロシア文学会ホームページで随時更新されるロシア語教育関係書籍・論文・活動リストや、日本ロシア語教育研究会ホームページに掲載の活動記録、会誌『ロシア語教育研究』等を参照のこと。2016年発行の『外国語学習のめやすーロシア語教育用』はオープンソースとして公開されており、ロシア語も含め多様な言語の教員による経験共有が図られている (めやす Web 3×3+3 <http://www.tjf.or.jp/meyasu/support/>)。

⁴ 林田理恵 (研究代表) 「大学間、高等学校ー大学間ロシア語教育ネットワークの確立」、2011 - 2015 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C)。

⁵ ロシア語学習者の動機づけを統計分析した先行研究には、Gardner & Lambert (1972)、Dörnyei (1994)、Yashima (2009) らの第二言語習得理論の研究成果を背景とした北岡 & 塩村 (2013) がある。

⁶ ロシア語教育委員会 (2011) の調査では、各機関によって履修制度、履修・授業形態等が大きく異なる中、英語偏重の制度変更・カリキュラム改変の中で発言力を持たないロシア語 (第2外国語) 教員が現場で苦勞しながら最善を模索し授業運営に取り組んでいることが知れる。

⁷ 神戸市外国語大学ホームページ <http://www.kobe-cufs.ac.jp/>

⁸ 神戸市外国語大学『履修の手引きー2016年度入学者用』(pp.9-10) にあるカリキュラム表ならびに到達目標の文言に対して表現上の軽微な変更を加えている。

⁹ モスクワ大学ロシア語ロシア文化学院から本学に派遣される交換教員は、さらにⅢ階程では B1(*ТРКИ-1)レベルに、Ⅳ階程では B2(ТРКИ-2)レベルに照準を合わせた会話授業を

行う。しかし、これら高年次クラスでは学習者間の習熟度に差が大きいことが授業運営を難しくしている。*ТРКИ (Типовые тесты по русскому языку как иностранному)とはCEFR-ALTE基準に対応するロシア連邦教育・科学省主催の「外国人のためのロシア語能力検定試験」のこと。日本の大学では大阪大学外国語学部が2007年度より導入された到達度評価制度において当試験を採用し、その到達レベルを各年次で定めている(到達度評価制度2010、林田2011)。

¹⁰ 講読は、Ⅱ階程2コマ、Ⅲ階程4コマ、Ⅳ階程3コマの計9コマある。

¹¹ 学習者にとって「辞書」と言えば電子辞書が当たり前の今日、学生の多くは電子辞書に搭載されている露和・和露辞典が万能であるかのように、文脈や用法を確認せず安易に用いるケースが頻繁に起こる。

¹² 内容重視型の教育法には北米を中心に研究が進むCBIと欧州で発展した内容言語統合型学習CLIL Content and Language Integrated Learningもある。上智大学では2014年度からCLILをカリキュラムに組み込んでいる(渡辺他2011、和泉他2012)。

¹³ 詳細は金子(2016)を参照のこと。

¹⁴ 日本ロシア文学会ホームページ <http://yaar.jpn.org/>

¹⁵ 日本ロシア語教育研究会ホームページ <http://rokyoken.web.fc2.com/>

¹⁶ 2005年に日本ロシア文学会の下部組織として誕生した「ロシア語教育委員会」は、ロシア語教育に関する教材や活動の調査・紹介および国内外で開催されるシンポジウム・セミナー等の情報提供を行う。現在、多くの委員がロシア語教育研究会メンバーでもある。ロシア文学会とロシア教育委員会の各組織の特色と動向については黒岩(2014)を参照のこと。

¹⁷ 現状調査の段階を経て、今日、既に具体的支援体制の構築の段階に入っている。横井幸子(研究代表)「高等学校のロシア語教員に関する縦断的研究：教師養成のための支援体制の確立」、2013-2016年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)。他、横井(2015)参照。

¹⁸ 「ロシア語教育支援・就職情報サイト」<http://kyoiku-ru.org/>

¹⁹ 現在、国内で受験可能なロシア語検定試験にはロシア連邦教育・科学省が主催・認定するCEFR準拠の「外国人のためのロシア語能力検定試験」と日本のロシア語能力検定委員会が実施する「ロシア語能力検定試験」がある。前者は国際スタンダードでもあるが国内で受験する機会が非常に限定されており、また受験費用も高く一般的には受験しにくい(cf. 日本対外文化協会 <http://taibunkyo.jp/>) また、ロシア国内の組織的にも課題がある(カザケーヴィッチ2010)。後者は1957年から始まる歴史を持ち、現在の受験者数は毎年1000人以上に上る。ロシア語検定試験として国内の認知度は高く、大学の推薦入試の資格基準として採用される事も多い。試験は春秋の二回実施、全国に試験会場があること、受験費用も比較的安いことから受験しやすい(ロシア語能力検定試験

<http://www.tokyorus.ac.jp/kentei/>)。中澤(2012)は両試験の各レベルの対照を試みているが、まだオーソライズされたものはない。

²⁰ 文部科学省中央教育審議会資料「現在の教育に関する主な課題」には大学教育に「知識や情報を集めて自分の考えを導き出す訓練をすること」を期待する企業のニーズと、より「専門分野の知識を身に付けさせること」を重視する大学の姿勢のズレが課題として指摘されている。文部科学省中央教育審議会教育振興基本計画特別部会(第7回) 配布資料 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo7/shiryo/07081503/003.htm

²¹ 例えば、スマートフォン等を使った語学学習など、学習者のスキマ時間を活用するだけでも学習言語に触れる時間は増えるであろう。科学研究費の助成を受けて試作し公開している「初級ロシア語問題集」アプリ(<http://fdks.org>)を、スマートフォンを用いて移動中に使用する学生も多い(cf. 川村和宏(研究代表)「初学者向け外国語ICT総合学習環境構築と多読データベース作成に関する研究」2015-2017年度 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究; 金子百合子、川村和宏「スマートフォンを使った自律的外国語学習の試みと問題点」報告概要 <http://rokyoken.web.fc2.com/activity/2016.html>)

²² 平成27年度文部科学白書第11章 ICTの活用の推進

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201501/detail/1362043.htm